

暫定議題
第15回生態学的関連種作業部会会合
2024年6月4-7日
日本、東京

議長からのコメント：

メンバー及びオブザーバーには、作業部会が直面する課題の解決及び実質的な進捗は既存の情報の解析及び将来的なオプションに関する文書が提出されることで大いに促進されることをご承知の通りである。そうした文書なしには、作業部会が進むべき方向性について合意することは極めて困難である。このため、メンバーには、ERSWG 15における以下のトピックに関する文書を提出するよう奨励したい。

- 議題項目 5.1.3 - 海鳥混獲のターゲットに関する文書（海鳥戦略の作業計画事項 1A）
- 議題項目 7.2 - 洋上でのオブザーバーの任務の優先順位付けについても網羅する形で科学オブザーバー計画規範の付録1の改訂案（海鳥戦略の作業計画事項 2G）
- 議題項目 3 - ログブック報告に関するデータ項目にかかる WCPFC によるレビューに関する情報文書（海鳥戦略の作業計画事項 2I）

水色でハイライトした議題／副議題項目にかかる議論は会合の開会前に文書通信により開始される予定であることに留意されたい。

1. 開会

1.1 議題の採択

1.2 文書リストの採択

1.3 ラポルツアーの任命

メンバーは、議題項目 4、5、7.2 及び 10 にかかるラポルツアーを指名するよう要請されている。さらに、各文書の発表者に対しては、会合報告書に盛り込むことができるよう、自身が説明した文書（年次報告書は除く）を要約したパラグラフを提供するよう要請される。

2. 年次報告書

2.1 メンバー

メンバーは、合意されている報告書テンプレートに従って ERSWG に対する年次報告書を作成し、これを提出する必要がある。報告書にはテンプレートが定める全ての情報が含まれていることが期待される。参加者は会合前に報告書を読了しているものと見なし、本議題項目は、報告書に関する明確化を行うための質疑応答に当てる。

2.2 ERSWG データ交換に関する事務局からの報告

事務局は、年次 ERSWG データ交換で得られたデータの概要を提供する¹。また本議題項目では、データ交換プロセス及び関連情報に関する変更についても検討する機会を提供する。

¹ これらのデータを独自に解析したいメンバーは、これらのデータを取りまとめたエクセルシートを CCSBT ウェブサイト「プライベートエリア」の「ERSWG データ交換」セクションから入手することができる。このデータを高度に集計した公開バージョンは、https://www.ccsbt.org/userfiles/file/data/ERSWG_Data.xlsx から入手可能である。

3. ERSWG に関連する他の機関の会合報告及び／又は結果

CCSBT の ERSWG 会合における長期的なオブザーバーの地位を有する全ての機関 (<https://www.ccsbt.org/ja/content/attendance-meetings-observers> を参照) は、会合に参加し、及び会合に対する報告を行うよう招請されている。また、メンバー及びオブザーバーは、ERSWG 会合に参加していない機関からの関連する会合報告書を提示する。ERSWG は、これらの報告書における関連勧告について検討する予定である。

4. ERSWG 14 による作業計画の進捗状況のレビュー

ERSWG 14 の作業計画は別紙 A のとおりである。ERSWG は、当該作業計画の進捗状況のレビューを行う。

5. ERS に関する情報及び助言

この議題項目は、SBT 漁業によって生じる ERS へのリスク及び SBT の資源状況に対する ERS の効果に関する評価を進めるとともに、リスク削減のために必要と考えられるあらゆる措置に関する助言を行うための重要な議題項目である。メンバー、CNM 及びオブザーバーは、以下の議題項目に関して、会合前に文書を作成し、これを提出することが要請されている。

5.1 海鳥類

5.1.1 資源状況に関する情報

事務局は、従前の指示に従い、ACAP 及びバードライフ・インターナショナルに対し、SBT 漁業において捕獲される可能性がある海鳥類に関する最新情報（個体群状態の概要及び混獲緩和措置のレビューを含む）を提供するよう要請する予定である。

5.1.2 ERS の死亡数の推定及びこれに伴う不確実性

この議題項目では、海鳥の総死亡数を推定する手法について検討するとともに、メンバーが提出した死亡数の推定値についてレビューする機会を提供する。

5.1.3 生態学的リスク評価

ERSWG 14 作業計画は、メンバーの協力を得てニュージーランドが「データ提供、モデル開発及びモデルの頑健性評価の分野における ERSWG の共同評価として SEFRA を実施する」ための作業をリードすることとしている。ERSWG は、2024 年 2 月 27-29 日に開催された ERS 作業部会のハイブリッド会合の結果を含む当該作業の成果についてレビューする予定である。

5.1.4 混獲緩和措置の評価及び助言

本議題は、現行の混獲緩和措置に関するレビューを行うとともに、必要と考えられるあらゆる変更についての助言を行うための ERSWG 常設議題項目である。ERSWG 14 において、台湾は、ERSWG 15 会合において混獲緩和措置の有効性に関する調査の結果を発表する予定であることを述べた。

5.1.5 海鳥の種同定

海鳥の種同定にかかる実務又は方法論に関する改善についてアップデートを行う。

5.2 さめ類

5.2.1 資源状況に関する情報

メンバーは、CCSBT に関連するさめ種の資源状況に関する情報を提供すべきである。

5.2.2 ERS 死亡数の推定及びこれに伴う不確実性

この議題項目では、さめの総死亡数を推定する手法について検討するとともに、メンバーから提出された死亡数の推定値についてレビューする機会を提供する。

5.3 その他の ERS

メンバー及びオブザーバーは、うみがめ類や海棲哺乳類といった ERS に対する SBT 漁業の影響に関する情報を提供することを奨励されている。

5.3.1 タスマニア周辺における SBT 遊漁とおっとせい類との相互作用に関するオーストラリアからのアップデート

ERSWG 14 作業計画は、オーストラリアが、タスマニア周辺における SBT 遊漁とおっとせいとの相互作用に関するアップデートを提供するとともに、必要に応じて、これらの相互作用の性質をより良く定量化するためにオーストラリアが実施を計画している作業に関するアップデートを提供することとしている。

6. 2023–3028 年 CCSBT 戦略計画

EC 30 は、2021 年 CCSBT パフォーマンス・レビューからの勧告を踏まえた 2023–2028 年を対象とする改訂 CCSBT 戦略計画を採択した。事務局は、新たな CCSBT 戦略計画のうち ERSWG に関連する事項を紹介する予定である。本議題項目での検討の際、事務局は EC に対し、戦略計画の行動事項に対する進捗状況にかかる情報提供を行う予定である。

6.1 ERS 及び混獲に関する行動計画案のレビュー

7. 電子モニタリング

7.1 CCSBT における電子モニタリング/システムに関するハイレベル指針

事務局は、2023 年の EC 30 において採択された CCSBT における EM/S に関するハイレベル指針について簡潔に紹介する予定である。

7.2 CCSBT 科学オブザーバー計画規範における ERS 関連のデータ要件のレビュー

2023 年の EM ワークショップでの議論に基づき、メンバーは、CCSBT 科学オブザーバー計画規範を通じて要請されているデータ要件につき、EM による入手可能性及び実際の使用状況/必要性に関するレビューを行うよう要請されている。事務局は、メンバーの見解を取りまとめた上で、EM の文脈での SOPS に関する勧告を行う予定である。

8. 海鳥に関する CCSBT 複数年戦略の進捗状況

EC 29 は、2021 年の ERSWG 14 により起草及び勧告された海鳥に関する CCSBT 複数年戦略を採択した。ERSWG 14 の作業計画において、メンバーは海鳥戦略に明記された各行動事項に関する成果及び計画を休会期間中に提示するよう要請されていたところである。ERSWG は、各行動事項にかかるメンバーからのフィードバックをレビューし、海鳥戦略に関する適切なアクションについて勧告を行うことが期待されている。

9. 教育及び広報活動

海鳥措置の実施強化のための海鳥プロジェクトは、FAO の資金により 2023 年 2 月から開始されている。CCSBT 海鳥プロジェクトマネージャーが当該プロジェクトの進捗状況について報告する。メンバーは、それぞれのメンバーに関係する各プロジェクト項目に関する作業計画について検討し、メンバーのプロジェクト (ERS 技術部会による SEFRA 関連作業を含む) と海鳥プロジェクトとの間のスケジュールを調整することが期待されている。

10. 科学オブザーバーカバー率の代表性の計算方法のレビュー

現在のところ、オブザーバーカバー率の代表性は、SMMTG 勧告に基づき、SBT が漁獲された統計海区のうち 10% のオブザーバーカバー率目標を達成した海区の割合として計算されている。2023 年の CC 18 会合は、ERSWG に対し、次回の ERSWG 会合における議題項目として、科学オブザーバーカバー率の代表性にかかる現在の計算方法をレビューするよう要請した。CC 18 は、代表性の計算に含める前に、ある海区における漁獲努力量の最低基準を定める必要があるかどうかについて疑問を呈した。

11. ERS 技術部会の付託事項

ERSWG は、休会期間中の ERS 技術部会に関する付託事項（オブザーバーの参加要件を含む）について検討するよう要請されている。

12. 将来の作業計画

ERSWG は、これまでの議題項目の中で提起された課題及び検討を要する追加的な作業項目を踏まえた改訂作業計画を策定する予定である。

13. その他の事項

14. ERS 問題に関する CCSBT 補助機関への検討の付託

本議題項目は、ERSWG が CCSBT の他の補助機関に対して特に検討を付託すべきと考える事項に関するものである。

15. 拡大委員会に対する勧告及び助言

ERSWG は、これまでの議題項目で提起された事項を踏まえて拡大委員会に対する勧告及び助言のリストを策定する予定である。

16. まとめ

16.1. 次回の ERS 技術部会会合／対面による ERSWG 会合の開催時期及びトピックに関する勧告

16.2. 会合報告書の採択

16.3. 閉会

ERSWG 14 作業計画

(当初の作業計画に、各行動事項の ERSWG 15 のいずれの議題項目において検討されるかを示す欄が追加されている。行動事項の内容に対応するより適切な議題項目がない場合、それらの作業計画事項にかかる議論は議題項目 4 で取り扱われる。)

活動	時期	リソース	ERSWG 15 議題項目
みなみまぐろ専獲漁船によるトリライン、荷重枝縄及び夜間投縄といった海鳥混獲緩和措置の同時使用の有効性に関する研究結果を提出する。	ERSWG 15	台湾	5.1.4
将来の ERSWG に対するメンバーの年次報告書においては、ERS の総死亡数の推定値を報告するための表に FAO のアルファベット 3 文字による種コード及び種/種群の名称を含める。	ERSWG 15	全メンバー	2.1
ERSWG 15 に対する事務局のデータ交換総括文書に、 <ul style="list-style-type: none"> オブザーバーカバー率の効果の違いを見るための基準として、観察捕獲数に加えて「捕獲率」を含める。 文書の表 5 を、統計海区 4 及び 11 を含める形で拡張する。 	ERSWG 15	事務局	2.2
他のまぐろ類 RFMO に対し、合意されたフォーマットにより ERSWG 報告書の重要なポイントの概要を提供する。	CCSBT 29 の閉会后	事務局	対応済
ACAP 海鳥種同定ガイドをインドネシア語に翻訳する。ACAP 及び CCSBT は、翻訳にかかる資金をシェアする。	ERSWG 15	ACAP 事務局	対応済
CCSBT における海鳥写真データベースをホストするプラットフォームとしての BMIS の活用について調査する。	ERSWG 15	事務局	5.1.5
全ての死亡（すなわち投棄死亡及び保持された商業漁獲）を含む形で修正した過去のデータを EDE に提供する。	2022 年 7 月の EDE まで	オーストラリア	対応済
データ提供、モデル開発及びモデルの頑健性評価の分野における ERSWG の共同評価として SEFRA を実施する。	ERSWG 15 までの休会期間中	ニュージーランドがリードし、全メンバーが参加	5.1.3
将来の会合では議題項目 5.1.3 及び 5.1.5 を統合する。	ERSWG 15	事務局	対応済
各メンバーは、合意された海鳥に関する複数年戦略に基づく活動の実施状況を報告する。	ERSWG 15	メンバー	2.1, 8
合意された海鳥に関する複数年戦略の全体的な実施状況をレビューする。	ERSWG 15	ERSWG	8

活動	時期	リソース	ERSWG 15 議題項目
タスマニア周辺における SBT 遊漁とおっとせいとの相互作用に関するアップデートを提供する。また、必要に応じて、これらの相互作用の性質をより良く定量化するためにオーストラリアが実施を計画している作業に関するアップデートを提供する。	ERSWG 15	オーストラリア	5.3.1
2023 年における休会期間中の専門的 ERSWG 会合の焦点及び議題を検討する。	可及的速やかに	メンバー	対応済